

ソウル郊外の住民自治センターにおける設置機能の変化について

道都大美術学部 ○安藤淳一 日大生産工 (院) 沼崎一也
 美作大生活科学学部 井原 徹 株式会社創造E&C 金潤煥
 日大生産工 広田直行

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

1999年の邑面洞機能転換施策により，韓国の住民自治センター（以下，自治センターとする）の設置が進められ，2002年までに全国で1,700館の設置が完了している。この施設の設置方法には，新築事例もあるものの，多くは多施設の転用事例であること，「邑・面・洞事務所」+「軍隊予備軍」+「自治センター」の複合施設であることが特色である。これまでソウル特別市の住民自治センターの設置機能について明らかにされている。本稿では，ソウル特別市郊外にあたる都市の自治センターに設置された機能の変化について，リモデリング等の再整備により設置機能に生じた変化について明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の方法

ソウル特別市郊外地域（広域市の区部，道の市部，広域市・道の郡部）3種類の地域を対象に，施設訪問による実態調査をおこなう。施設再整備状況では，調査時の室名称の確認をおこない，2002年に発行された住民自治センター現状集に記載されている室名称と2011年の調査との比較により，その際を設置機能の変化として分析する。ただし，調査事例の8. 12. 23は施設の存在，施設機能の移転等より本稿の分析から除く。

- ・調査期間：2011年8月29日～31日（3日間）
- ・調査方法：施設視察および施設運営者へのヒアリング調査
- ・調査地域：広域市区部（仁川広域市8事例）
 道の市部（京畿道14事例）
 広域市・道の郡部（京畿道7事例）

表1 調査事例一覧

	施設名称	整備方法	a	b	c	d	e	f	g	h	i
			半 図	実 図	集 集	作 高	多 目 的	展 示	事 務	文 庫	そ の 他
広域市の区部	1 馬山2洞	新築	2	2							
	2 山谷2洞	新築	3	2							
	3 清川2洞	新築	1	2							
	4 明堂2洞	新築	2								
	5 麟田2洞	新築	1	2							
	6 麟田1洞	新築	2								
	7 桂山1洞	新築	2								
道の市部	9 長岩洞	新築	3								
	10 新谷1洞	新築	3								
	11 龍政洞	新築	3								
	12 1洞	新築	3								
	13 神道洞	新築	2								
	14 高陽洞	新築	3								
	15 高陽洞	新築	3								
	16 金牛洞	新築	2								
	17 舟橋洞	新築	1	2							
	18 豊沙2洞	新築	1								
	19 幸徳1洞	新築	2								
	20 幸徳2洞	新築	2								
	21 注染1洞	新築	3								
	22 松山洞	新築	2								
	広域市・道の郡部	24 松泉邑	新築	1							
25 陣草面		新築	1								
26 兩面		新築	1								
27 広積面		新築	2								
28 白石邑		新築	3								
29 長興面		新築	2								
30 長興面		新築	3								
■整備前生数合計			51	5	24	12	13	2	1	6	0
●整備後生数合計			35	5	27	24	13	2	8	8	1

2. 室機能の分類

自治センターに設置されている室を機能

別に分類する方法として，既往研究で行った方法をもとに行う。分類方法は，施設に設置され

Change of The installed function of The Self-government Center
 in The Korean Seoul Suburbs

Junichi ANDO, Kazuya NUMAZAKI, Toru IHARA, Yun-hwan KIM, Naoyuki HIROTA

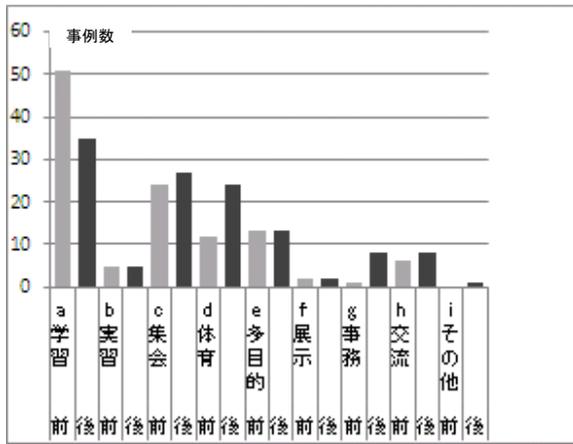


図1 施設整備における室機能分類

た室名称から室の設置目的を判断しておこなっており、この方法により以下のような室名称の分類をおこない9種類に整理する。

- a学習:インターネット室, コンピュータ室他
- b実習:読書室, 音楽室, 書道教室他
- c集会:文化教室, 会議室, 住民自治委員会, 住民サランバン, 文化ホール他
- d体育:体力鍛錬室, ストレッチングルーム他
- e多目的:多用途室, 多目的ホール他
- f展示:常設展示室, 民族展示室他
- g事務:案内室, 自治センター事務室他
- h交流:休憩室, 民族相談室他
- iその他:多用途室他

図1では設置されている室機能の傾向を概観できる。中心となる機能は「学習」である。これに「集会」「体育」「多目的」が続き、10年間に現れた変化は施設整備により学習機能の減少, 集会・体育機能の増加である。

3. エリア別の室構成

広域市の区部の自治センターの室構成を、整備前後での変化をみると、整備前は「学習」が30~60%の範囲で全体に設置されている。整備後「学習」は0~65%まで幅が広がる反面「集会」「体育」が全事例に設置される増加がみられ、「多目的」が減少している。「学習」中心とした室機能構成から施設ごとに要求機能による独自性が現れたと考えられる。

道の市部でも似通った傾向がみられる。整備前の「学習」中心施設から「学習」が消失する事例も現れるように、50%を下回る施設が10事例にもなり、それにともない「集会」を中心とした室構成に変化している。

広域市・道の郡部では、前の2エリアと比較して整備前の事例においてもすべてが「学習」中心とはいえず、整備後は「学習」「集会」や「体育」も減少する。それに代わり、「事務」「交流」が増えている。広域市・道の郡部は、前2エリアとの変化の傾向が異なる結果が現れたといえる。

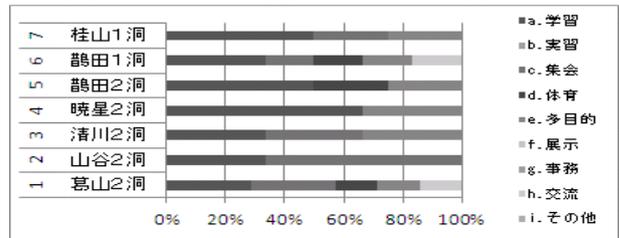


図2 広域市の区部 (整備前)

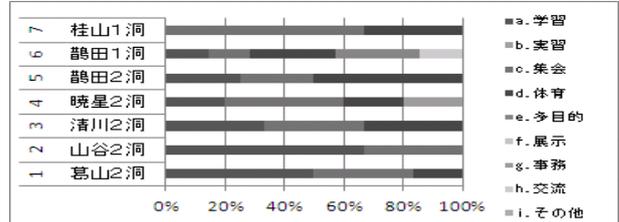


図3 広域市の区部 (整備後)

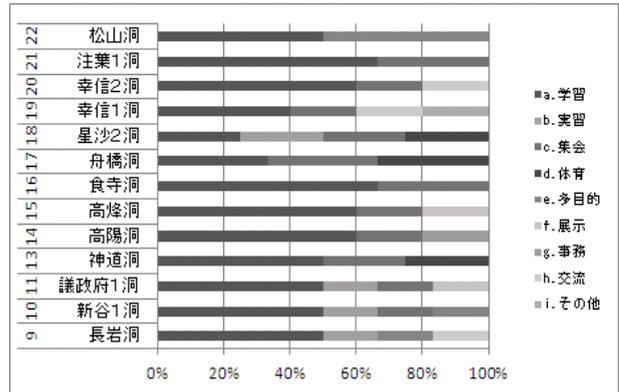


図4 道の市部 (整備前)

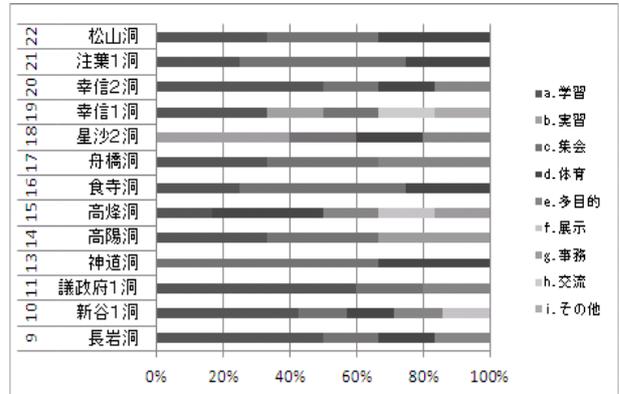


図5 道の市部 (整備後)

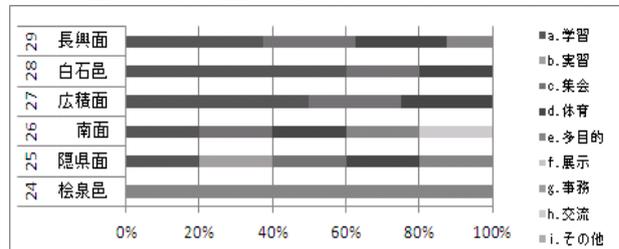


図6 広域市・道の郡部 (整備前)

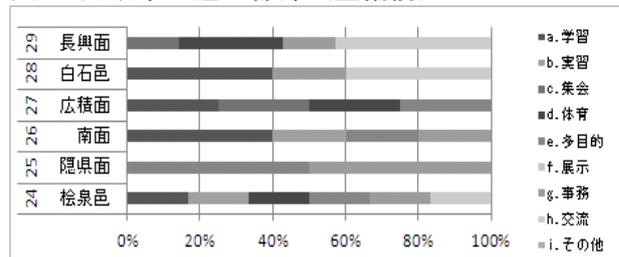


図7 広域市・道の郡部 (整備後)

4. 整備方法別の室構成

新築6事例では「10 新谷1洞」のみ新築後の整備であるが、他5事例の整備前は新築事例とは異なる建築であるため、整備前と後の室構成に相違がみられる。新築施設に設置された自治センターの状況は、それぞれ異なる。大型複合施設のワンフロアに設置されている事例（事例3）、同一敷地内に別館として新築施設に設置された事例（事例26、事例28）などである。新築の際に設置機能の集約化がおこなわれていると考える。「10 新谷1洞」は、新築後の再整備において「学習」間での室機能の入れ替えはおこなわれているが、「学習」主体の室構成を継続している事例である。

転用事例をみると、整備前は20%~60%の幅で「学習」が占め、さらに「集会」が中心に設置された施設である。整備後は「学習」の室設置が半減するが「集会」は大きな変化はなく、「事務」「交流」が増加している。その結果、「学習」の設置機能の有無が室構成に現れている。「学習」で消失しているのはインターネット関連の情報機能で（事例7、事例13）ある。また転用事例としているが、整備により同一敷地内の別館に再度転用している事例では、新築事例のような整備前と後では大きく設置機能に変化がみられる（事例25、事例29）。全体として設置されている室機能数は総数41が38に減少しているのも特徴である。

次に、転用事例において整備の過程で増築がおこなわれた事例では、転用と同様に整備前は「学習」主体に機能が設置されている。10事例は25%から65%の幅はあるもののすべての事例に設置されている。「集会」「交流」も設置機能として整備前にも出現しているが、「交流」も減少傾向であるものの「集会」「体育」「多目的」は増加する。特に「体育」は事例数で4倍ほどになる。ただし整備前の増築した部分には、これらの機能が該当する事例と予備軍が入ってくる事例がある。「学習」は1事例を除き消失はしないが50%以下に減少する。

5. エリアと整備方法の関係

3エリアのなかで、事例数の多い道の市部を例にすると、「転用・増築」の整備前後の室機能が増加する傾向をみることができる。整備前は学習中心の室構成であるが、整備後は、各施設の施設要求による室構成に変化している。整備前と比較し、室機能がひと段階増加していることにより、施設機能にも多様になっていることがわかる。

「転用」では室機能数が整備後現使用する事例もあり、整備方法による設置機能に相違が生じていることがわかる。

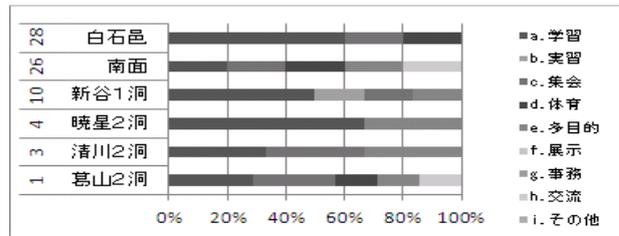


図8 新築事例（整備前）

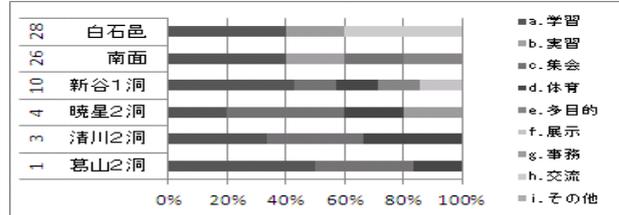


図9 新築事例（整備後）

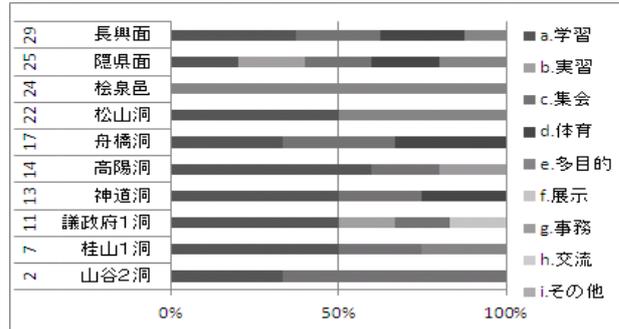


図10 転用事例（整備前）

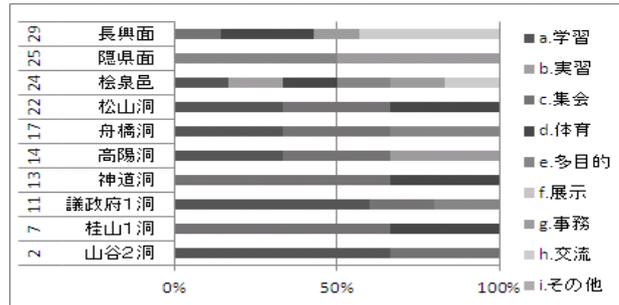


図11 転用事例（整備後）

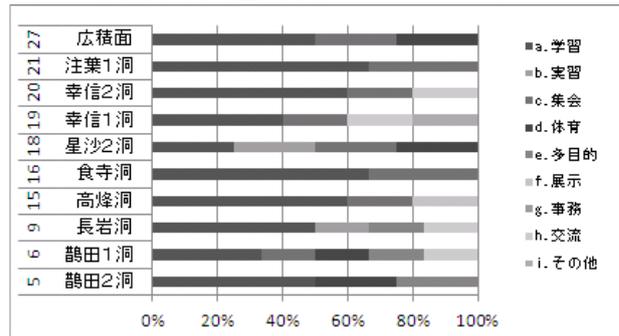


図12 転用・増築事例（整備前）

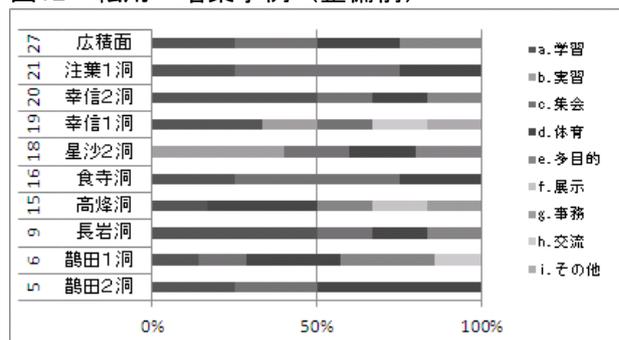


図13 転用・増築事例（整備後）

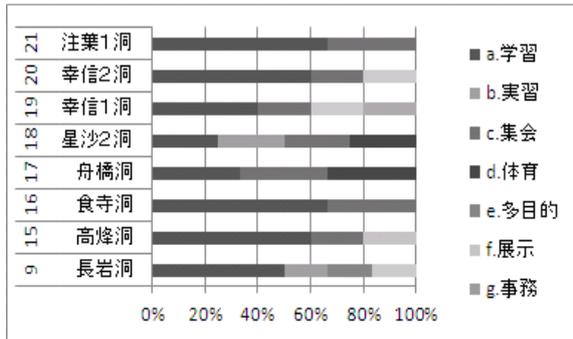


図14 道の市部 転用+増築事例（整備前）

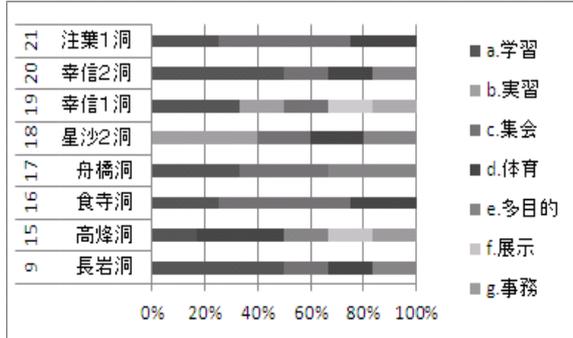


図15 道の市部 転用+増築事例（整備後）

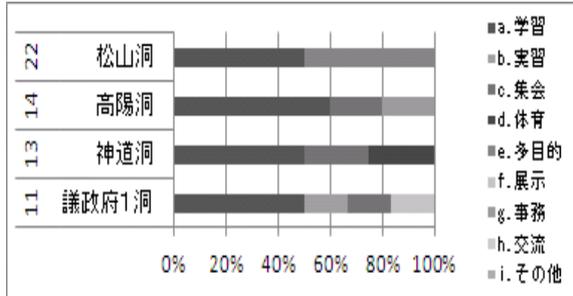


図16 道の市部 転用（整備前）

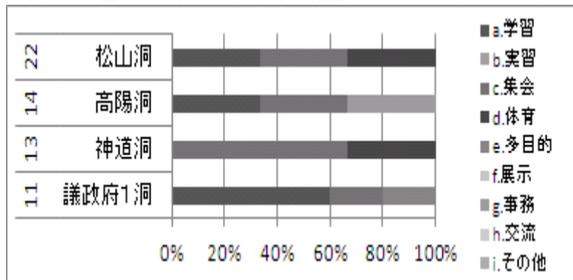


図16 道の市部 転用（整備後）

表2 整備方法別設置機能数

整備方法		a	b	c	d	e	f	g	h	i
		学習	実習	集会	体育	多目的	展示	事務	交流	その他
新築	整備前	12	1	6	3	5	0	0	2	0
	整備後	12	1	6	4	2	1	2	2	0
転用	整備前	17	2	10	5	5	1	1	0	0
	整備後	9	1	10	6	4	0	4	4	0
転用・増築	整備前	22	2	8	4	3	1	0	4	1
	整備後	14	3	12	12	7	1	0	2	1
合計	整備前	51	5	24	12	13	2	1	6	1
	整備後	35	5	28	22	13	2	6	8	1
整備前後の増減		-16	0	4	10	0	0	5	2	0

6. まとめ

ソウル市郊外の3エリアにおける自治センターに設置された室機能は、「学習」が主体となって設置され、施設整備の過程でそれぞれの施設需要に合わせて設置機能に変化している。この特徴は広域市の区部、道の市部にも該当する。

さらに「転用」と「転用・増築」の事例について室構成の変化のパターンを整理してみると、同じパターンで変化する事例はほぼみられないことがわかる。各施設において根幹となる施設機能を確保したうえで、施設空間に余裕のある部分でリモデリングという手法を用い、地域の施設需要による施設整備がおこなわれている。その際、転用時点で設置された室構成が根幹となり、次の整備に展開するが、その設置機能は地域（エリア）の状況として利用圏域や地域独自の施設需要などが影響し、さらに施設利用者の要求の多様性がこのような結果を生じさせていると考える。

表3 室構成変化のパターン

【転用の場合】			
室機能数	パターン	重複	事例数
2種類	学*集→学*集	2	1
	学*多→学*集*体	1	1
3種類	学*集*体→学*集*多	2	1
	学*集*事→学*集*事	3	1
	学*集*体→集*体	2	1
	学*集*多→集*体	1	1
4種類	学*集*体*多→集*体*事*他	2	1
	学*実*集*展→学*集*多	2	1
5種類	学*実*集*体*多→多*事	1	1
【転用・増築の場合】			
室機能数	パターン	重複	事例数
2種類	学*集→学*集*体	2	2
3種類	学*集*交→学*集*体*多	2	1
	学*集*展→学*集*多*展*事	3	1
4種類	学*体*多→学*集*体	2	1
	学*集*交*他→学*実*集*交*他	4	1
	学*実*集*体→実*集*体*多	3	1
	学*実*多*交→学*集*体*多	2	1
5種類	学*集*体*多*交→学*集*体*多*交	5	1

※転用（整備前）の1種類はパターンから除く

「参考文献」

1. 金潤煥, 浅野平八, 広田直行「韓国における公的集会施設の整備状況 - 韓国の地域集会施設調査報告-」第18回地域施設計画研究 (2000) pp151-156
2. 小林秀将, 井草敬太, 金潤煥, 広田直行「ソウル特別市における住民自治センターの設置機能」2007年度日本建築学会関東支部研究報告集 5009pp33-36